

三種でイベント 地元食材を使用 親子料理楽しむ



料理体験や工作を楽しむイベント「親子でみたねを再発見」が、三種町芦崎のせいぶ館で開かれた。親子24人が参加し、町産の食材を使った豚汁やスイートポテト作りを通じて町の魅力に触れた。

町民有志ら6人でつくる「みたねの宝を見つけよう！実行委員会」の主催。親子が町内で楽しめるイベントについて夏から意見を出し合い、実行委メンバーの栄養士やパティシエが得意とする料理や、工作を体験してもらう内容とした。

参加者には調理前、用意した野菜や豚肉のほとんどが町内産であることを説明。子どもたちは親や実行委メンバーの手ほどきを受けながら、ダイコンやハクサイ、ニンジンなどを包丁で慎重に切っていた。

サツマイモでスイートポテト作りにも挑戦。生クリーム、バターと混ぜてペースト状にし、タルト生地に絞った。完成後は「おいしい」と笑顔で頬張っていた。サツマイモのつるや落ち葉などを活用したクリスマスリースとツリー作りにも取り組み、思い思いの作品を完成させた。

実行委員長で、町地域おこし協力隊の信田秋桜さん(30)は「メンバーと一緒にだったからこそ形にできた。来年度以降に向けてさらに輪を広げ、誰かの『やりたい』を実現できる体制にしたい」と話した。

イベントは県の「未来をつくるロカジョサークル応援事業」を活用して7日に行われた。(藤岡真希) (令和7年12月19日(金)秋田魁新聞から一部抜粋)